

学会録事

1. 日本藻類学会第36回大会(札幌)報告

(1) 日本藻類学会第36回大会(札幌)

上記大会を2012年7月13日(金)～15日(日)に北海道大学学術交流会館にて開催した。

大会1日目は、午後にワークショップI「藻類の形態観察に関わる技術講習(講義編)」(講師:大田修平氏,高野義人氏,山本真紀氏,長里千香子氏,関田諭子氏),および,編集委員会・評議員会を行った。2日目は,口頭発表(2会場),ポスター発表(奇数番号),日本藻類学会創立60周年記念講演(吉田忠生氏),日本藻類学会総会,懇親会を行った。3日目は,口頭発表,ポスター発表(偶数番号),公開講演会「コンブとマリモ - 北海道の藻類の話」(四ツ倉典滋氏,澤 晶子氏,若菜勇氏)を行った。また,ワークショップII「藻類の形態観察に関わる技術講習～急速凍結置換法とトモグラフィー解析～(実践編)」(講師:本村泰三氏,長里千香子氏)を7月16日(月)～18日(水)に北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所で行った。

(2) 編集委員会・評議員会

7月13日(金)15:00より北海道大学理学部にて,英文誌および和文誌の合同編集委員会を開催した。

英文誌については,峯英文誌編集長から「Phycological Research」の2011年度,2012年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2011年度は総頁数310頁,掲載論文数36編であったこと,2012年度については60巻1号に7編,2号に7編が掲載され,3号は9編の掲載予定であることが報告された。電子システムの運用状況,編集にかかる日数に関して報告があった。また,2010年のインパクトファクターは1.186,2011年は1.543となったことが報告された。編集体制,電子投稿システムの運用について審議が行われた。Wiley社の荒生氏から2011年度の英文誌出版状況・成果等をまとめた年次報告書についての説明があった。

和文誌については寺田和文誌編集委員長より「藻類」59巻および60巻の編集状況に関する報告があった。59巻(2011年)には4編の原著論文や総説のほか,学会講演要旨や企画記事等が掲載され,総頁数は257頁(増補を除くと179頁)であったことが報告された。60巻の刊行計画,編集方針について説明があり,審議が行われた。

評議員会は編集委員会終了後,同会場にて16:30より行われた。2012年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。内容に関しては総会の項を参照されたい。

(3) 2012年度総会

大会2日目(7月14日)17:15より総会を行った。堀口会長の挨拶の後,川井浩史氏(神戸大学)を議長に選出し議事に入った。

[報告事項]

・庶務関係

(1) 会員状況(2012年2月29日現在):名誉会員5名,普通会員名945名(国内・一般628名,国内・学生149名,外国168名),団体会員45名,賛助会員9名,「藻類」国内購読19件(6月20日現在)。

(2) 2011年度事業報告: 1) 日本藻類学会第35回大会・評議員会・総会(富山大学五福キャンパス,2011年3月26日～3月28日)の開催,2) 和文誌「藻類」59巻1号,1号増補,2号,3号の発行,3) 英文誌「Phycological Research」59巻1～4号の発行(1,4,7,10月発行),4) 第14回日本藻類学会論文賞の授与と第15回日本藻類学会論文賞の選考,5) 第7回日本藻類学会研究奨励賞の選考,授与と第8回日本藻類学会研究奨励賞の募集,6) 藻類学ワーク・ショップI「藻類・藻類ウイルス・原生動物等の分離・培養法」(2011年3月26日,富山大学五福キャンパス共通教育棟),および,ワークショップII「藻類採集観察会」(2011年3月28,29日,金沢大学環日本海域環境研究センター生物多様性部門臨海実験施設・のと海洋ふれあいセンター)の開催,7) 和文誌「藻類」バックナンバーのPDF化,8) 学会ホームページの民間レンタルサーバーへの移行,9) 電子メールによる学会連絡の配信,10) 日本藻類学会創立60周年記念事業,11) 第14回バイオテクノロジー学会大会(2011年5月28,29日,静岡県コンベンションアーツセンター)の協賛。

・会計関係

(1) 2012年2月29日現在の2011年度会費納入率(雑誌発送会員を対象)は,普通会員(国内・一般)97%,普通会員(国内・学生)100%,普通会員(外国)85%,賛助会員89%,団体会員63%であった。

(2) 2011年度一般会計決算等,その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2011年度に発行した英文誌「Phycological Research」58巻1-4号は,総頁数310,掲載論文数36編であった。

(2) 2011年度に発行した和文誌「藻類」59巻1-3号は,総頁数は257頁(増補を除くと179頁),内訳は原著論文・総説4編,その他であった。

これらに関連した詳細については,前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

・その他

日本藻類学会研究奨励賞への応募が少ない状況が近年続いているため,多くの方が応募できるような制度とするため,ワーキング・グループを組織しそこで賞の要綱について検討し原案を作り,評議員会で要綱を決定すると報告があった。

[審議事項]

・会計関係

(1) 2011 年度一般会計決算報告および同監査報告（会計監事：工藤利彦会員、四ツ倉典滋会員）は表 1 のとおり承認された。

(2) 2011 年度山田幸男博士記念事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表 2 のとおり承認された。

(3) 2011 年度研究奨励賞事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表 3 のとおり承認された。

(4) 2012 年度一般会計、山田幸男博士記念事業基金特別会計、および研究奨励賞事業基金特別会計の予算は表 4、表 5 および表 6 のとおり承認された。

・庶務関係

(1) 2012 年度事業計画として以下の事項が承認された： 1) 日本藻類学会第 36 回大会・評議員会・総会（北海道大学札幌キャンパス、2012 年 7 月 13 日～7 月 15 日）の開催、2) 和文誌「藻類」60 巻 1 号、2 号、3 号の発行、3) 英文誌「Phycological Research」60 巻 1～4 号の発行（1、4、7、10 月発行）、4) 第 15 回日本藻類学会論文賞の授与と第 16 回日本藻類学会論文賞の選考、5) 第 8 回日本藻類学会研究奨励賞の選考、授与と第 9 回日本藻類学会研究奨励賞の募集、6) 藻類学ワーク

ショップ I「藻類の形態観察に関わる技術講習（講義編）」（2012 年 7 月 13 日（金）、北海道大学理学部 5 号館）およびワークショップ II「藻類の形態観察に関わる技術講習～急速凍結置換法とトモグラフィー解析～（実践編）」（2012 年 7 月 16 日（月）～18 日（水）、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所）、7) 日本藻類学会創立 60 周年記念事業、8) 日本藻類学会会長選挙及び評議員選挙の実施、9) 9th Asia-Pacific Marine Biotechnology Conference (APMBC2012) および第 15 回マリンバイオテクノロジー学会大会（2012 年 7 月 13～16 日、高知市文化プラザ）の協賛、10) 北海道大学総合博物館企画展示（2012 年 7～9 月、北大総合博物館）の共催

・その他

(1) 日本藻類学会第 37 回大会（2014 年）の開催地を東邦大学（船橋）とすることが承認された。

(2) 学会事務局では和文誌「藻類」の PDF 化を進めてきたが、その PDF 化された「藻類」の活用に関して以下のことが承認された：「藻類」を学会ホームページで一般に閲覧できるようにする。ただし、発行後 2 年間は一般に閲覧できるようにはしない。

表 1. 2011 年度一般会計決算（2011.1.1-2011.12.31）

収入（円）		支出（円）	
会費	6,169,750	和文誌経費	1,954,065
普通（国内・一般）	3,944,000	英文誌経費	3,697,200
普通（国内・学生）	483,000	編集費	0
外国会員	448,000	和文誌編集補助費	0
団体会員	1,054,750	英文誌編集補助費	0
賛助会員	240,000	庶務費	286,530
和文誌関係収入	1,142,556	事務用品費	981
定期購読	78,300	会議費	36,000
バックナンバー	3,000	通信印刷費	217,069
別刷・超過頁代	880,000	諸雑費	32,480
広告代	180,000	幹事旅費補助	1,000
著作権許諾料金	1,256	大会補助費	120,000
英文誌関係収入	1,372,187	自然史学会連合分担金	20,000
超過頁代	884,500	分類学会連合分担金	10,000
掲載料	228,000	60 周年記念事業	0
版權還付金	259,687	和文誌 PDF 化作業費	73,600
受取利息	1,223	レンタルサーバー代	0
寄付金	388,808		
小計	9,074,524	小計	6,162,395
前年度繰越金	9,771,885	次年度繰越金	12,684,014
合計	18,846,409	合計	18,846,409

表 2. 2011 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (2011.1.1-2011.12.31)

収入 (円)		支出 (円)		
受取利息	普通預金	177	論文賞用雑費	27,200
	定期預金	302		
小計		479	小計	27,200
前年度繰越金		2,596,918	次年度繰越金	2,570,197
合計		2,597,397	合計	2,597,397

表 3. 2011 年度研究奨励賞事業特別基金会計決算 (2011.1.1-2011.12.31)

収入 (円)		支出 (円)		
受取利息	普通預金	112	奨励賞賞金	100,000
	定期預金	169		
小計		281	小計	100,000
前年度繰越金		1,609,464	次年度繰越金	1,509,745
合計		1,609,745	合計	1,609,745

日本藻類学会 2011 年度決算書に対し記名捺印する 2012 年 6 月 28 日

2011 年度 会 長 堀口 健雄 印

2011 年度 会計幹事 阿部 剛史 印

決算書が適正であることを認める

2012 年 6 月 28 日

2011 年度 会計監事 工藤 利彦 印

2012 年 7 月 3 日

2011 年度 会計監事 四ツ倉 典滋 印



与論島のユミガタオゴノリに見る地産地消

ユミガタオゴノリ (島名: シルナ) は与論島の料理に欠かせない食材で、島内で春先に採取されたものが利用されています。採られたものはすべて島内で消費されていますが、食卓に上がるまでの過程はどのようになっているのでしょうか? 島内某所で藻場調査をしていたところ、シルナを採る漁業者の姿を近くで見ることができました。本種はサンゴ礁リーフの礁池で見られますが、点生程度なので採取も大変そうです。翌朝の漁協では、数キロほどが出荷されていました。仲買さんに競り落とされた海藻は歩いて数分ほどの鮮魚店に運ばれ、昼頃には調理されたものが店頭で並んでいました。小売りされたシルナは夜の民宿の食卓に並び、私が堪能したことは言うまでもありません。湯通ししてから酢味噌和えていただきますが、コリコリとした食感が美味です。「島はひとつの世界」と言いますが、収穫から消費までの過程が徒歩圏内で完結していますので、見事な「地産地消」とも言えます。



与論島ではモツレミルやヤセガタモツレミルも食用として採取されており、同じように酢味噌和えて食べます。これらの海藻の利用はすべて天然のものに依存していますので、採れる量だけの利用に限定されています。養殖技術の確立によって生産量がある程度確保できるようになれば、新たな海藻食品として島外への出荷も夢ではないかも知れません。八重山地方で自家消費の利用にすぎなかったクビレズタが一大養殖業に発展しているように、南西諸島には新たな資源・産業になりうる海藻が各地にあります。微力ながら島の食文化の継承と新たな産業の育成に貢献できればと考えています。(寺田)

表 4. 2012 年度一般会計予算 (2012.1.1-2012.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
会費	5,591,800	和文誌経費	2,500,000
普通 (国内・一般)	3,648,400	英文誌経費	5,951,300
普通 (国内・学生)	370,500	編集費	300,000
普通 (外国)	452,900	英文誌編集補助費	200,000
団体会員	880,000	和文誌編集補助費	100,000
賛助会員	240,000	庶務費	397,400
和文誌関係収入	489,250	事務用品費	1,000
定期購読	155,250	会議費	63,000
バックナンバー	3,000	通信印刷費	300,000
別刷・超過頁代	210,000	諸雑費	7,000
広告代	120,000	和文誌 PDF 化作業費	26,400
著作権許諾料金	1,000	幹事旅費補助	3,920
英文誌関係収入	1,370,000	大会補助費	120,000
超過頁代	880,000	自然史学会連合分担金	20,000
掲載料	230,000	分類学会連合分担金	10,000
版權還付金	260,000	60 周年記念事業	400,000
受取利息	1,000	レンタルサーバー代	7,800
寄付金	500,000		
小計	7,952,050	小計	9,710,420
前年度繰越金	12,684,014	次年度繰越金	10,925,644
合計	20,636,064	合計	20,636,064

表 5. 2012 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (2012.1.1-2012.12.31)

収入 (円)		支出 (円)		
受取利息	普通預金	11	論文賞用雑費	27,200
	定期預金	500		
	小計	511		
前年度繰越金		2,570,197	次年度繰越金	2,543,508
合計		2,570,708	合計	2,570,708

表 6. 2012 年度研究奨励賞事業特別基金会計予算 (2012.1.1-2012.12.31)

収入 (円)		支出 (円)		
受取利息	普通預金	18	奨励賞賞金	100,000
	定期預金	280		
	小計	298		
寄付金	IPC9 より	1,322,818		
前年度繰越金		1,609,464	次年度繰越金	2,832,580
合計		2,932,580	合計	2,932,580

[日本藻類学会論文賞授与]

第15回(2011年)日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは2011年に発行された英文誌「Phycological Research」vol.59(1)-(4)の中から、規定に従い審査員の投票によって選ばれ、持ち回り合同編集委員会および評議員会です承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ、論文の著者に賞状および記念品が授与された。

Masaki Yoshida, Yamato Yoshida, Takayuki Fujiwara, Osami Misumi, Haruko Kuroiwa and Tsuneyoshi Kuroiwa. Proteomic comparison between interphase and metaphase of isolated chloroplasts of *Cyanidioschyzon merolae* (Cyanidiophyceae, Rhodophyta). *Phycological Research* 59 (1): 1-15.

[日本藻類学会研究奨励賞授与]

第8回(2012年)日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後、持ち回り評議員会です承されたものである。今回はNi-Ni-Win(ニニウィン)氏(東京大学大学院総合文化研究科, Systematic revision of the genus *Padina* (Dictyotales, Phaeophyceae) deduced from morphology and molecular phylogeny; 形態学と分子系統学的解析によるウミウチワ属(褐藻アミジグサ目)の系統分類の再検討)が選ばれ、賞状および副賞(賞金10万円)が授与された。

2. 2012年度日本藻類学会第4回持ち回り評議員会

第4回持ち回り評議員会(2012年7月30日~8月20日)を開催し、次期会長候補者の推薦投票を行った。国内評議員16名中9名から投票があり、得票数5位までの方に対して学会事務局から推薦の可否の確認を行った。その結果、次期会長候補者として、奥田一雄氏、川井浩史氏、田中次郎氏(五十音順)を評議員会から推薦することとなった。

3. 2012年度日本藻類学会第5回持ち回り評議員会

第5回持ち回り評議員会(2012年8月27日~9月7日)を開催し、日本藻類学会ロゴマークの制定に関して、学会員の投票により最多得票を得た作品を学会ロゴマークとすることの可否を審議した。回答があった9名全員の賛成により審議事項が承認された。

4. 日本藻類学会次期会長及び評議員選挙の結果

次期会長・評議員選挙(任期:2013年1月1日~2014年12月31日)を2012年9月3日から9月20日にかけて実施した。2012年9月21日、北海道大学大学院理学研究院において、山田規子会員、渡邊邦彦会員の立ち会いのもと開票を行った。その結果に基づき、各当選者の承諾を得て、以下の次期会長および評議員が選出された。

[会長選挙]

田中次郎(当選);川井浩史(次点)



論文賞授与の様子



研究奨励賞授与の様子

[評議員選挙]

北海道地区(定員1名)
小亀一弘(当選);四ツ倉典滋(次点)
東北地区(定員1名)
村岡大祐(当選);仲田崇志(次点)
関東地区(定員4名)
河地正伸(当選),中山剛(当選),白岩善博(当選),
出井雅彦(当選);渡辺信(次点)
東京地区(定員2名)
藤田大介(当選),南雲保*(当選);鈴木秀和(次点)
中部地区(定員2名)
芹澤如比古*(当選),上井進也(当選);前川行幸(次点)
近畿地区(定員2名)
榎本平(当選),坂山英俊(当選);幡野恭子(次点)
中国四国地区(定員2名)
吉田吾郎(当選),峯一朗(当選);平岡雅規(次点)
九州地区(定員2名)
野呂忠秀(当選),桑野和可(当選);飯間雅文(次点)
日本以外の地区(定員3名)
ANG, Put O. Jr.* (当選), Nelson, Wendy A. (当選),
Payri, Claude E. (当選); Fredericq, Suzanne (次点)
(敬称略, *は連続2期目となる評議員を示す)

第9回日本藻類学会研究奨励賞の募集案内

本賞は、藻類学の発展に積極的に寄与することを期待し、藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものです。学会ホームページ (<http://sourui.org/welcome.html>) に掲載されている本賞の募集案内をご参照下さい。多数の方々のご応募をお待ちしています。

応募手続

学会ホームページにある日本藻類学会研究奨励賞推薦書をダウンロードし、必要事項を記入の上、事務局宛（下記）に郵送して下さい。その際、「研究奨励賞推薦書」と必ず朱書きして下さい。なお、電子メールによる応募は受付でき

ませんので、ご了承下さい。

応募締め切り日 2012年12月25日（火）必着

応募書類送付先・問い合わせ先

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門多様性生物学分野2内

日本藻類学会事務局

Tel. 011-706-2745, Fax. 011-706-4851

E-mail: kogame@sci.hokudai.ac.jp

日本藻類学会ロゴマーク決定のお知らせ

「藻類」本号の表紙は、今回決定しました本学会のロゴマークデザインです。これまで学会ロゴがなく、本学会創立60周年記念事業の一部として、学会ロゴの制定を進めておりました。ロゴマークを一般に募集しましたところ109点の応募があり、学会員による投票（2012年7月10日～2012年8月10日）を行って、最多得票の作品を評議員会でロゴマークとして承認していただきました。ロゴマークの作者は金城秀章さん（沖縄市在住、デザイナー）です。金城さんのデザイン解説を引用しますと — 海藻をモチーフに藻類の頭文

字「S」をかたどったマークを作成し、その周りを英語表記の「The Japanese Society of Phycology」と「日本藻類学会」の文字組で囲みました。ブルーとグリーンのカラーを使うことによって、水と植物、自然を表しております。あえてオーソドックスなデザインにすることで、色々な媒体でも使いやすく、品格があり、多くの人たちから親しみを頂けていたのではないかと考えます — とのことです。これからこの学会ロゴマークを何卒宜しく願います（カラーのロゴマークは本誌表紙を参照下さい）。



会員異動

新入会	機関名または氏名	所属機関または自宅住所
-----	----------	-------------

所属変更	氏名	所属機関
------	----	------

訃報

本会名誉会員 西澤一俊氏は平成 24 年 10 月 10 日に逝去されました。

謹んで哀悼の意を表します。日本藻類学会



日本最南端の海苔養殖とアサクサノリ

海苔養殖は日本各地で行われていますが、最も南の産地はご存じでしょうか？八代海南部の鹿児島県出水市が最南端で、秋から冬にかけて養殖されています。ここは最南端であることに加え、アサクサノリも養殖している場所として知られています。現在、日本で養殖される海苔のほとんどは養殖品種であり、海苔の代名詞として知られたアサクサノリは絶滅危惧種です。出水市のアサクサノリは野口種と呼ばれる地元の株で、分子系統解析で本種と確認されています。規模は決して大きくありませんが、生産者の熱意で品質のよい海苔が毎年生産されています。

(寺田)

